

『家庭の中の人権 カラフル』

「カラフル」は、日本語で「色鮮やかな、多彩な」という意味です。人権問題において、その人の特性や思考の違いを例えるのに「カラフル」という表現はよく使われます。

このDVDでは、家族の会話を通じて、家庭の中にある人権課題を取り上げています。人権に対する意識の基盤は、家庭の中で生まれていることがわかります。「人権」の問題は「人間」の問題。私たち一人ひとりが生きていく日々の中に存在します。

■収録されているテーマ

- ・他人の噂—誰も知らず知らずの内に…
- ・子どもの就職—名刺に格付け？
- ・子どもの結婚—親の理想と価値観
- ・LGBT—”普通”という思い込み
- ・多様性を認めるカラフルな社会へ

■あらすじ

主人公の福沢聡は、大手商社勤務で妻の優子と2人の子どもと暮らしている。最近の聡の気がかりは、就職後すぐに会社をやめてしまい、フリーターをしている息子・一馬のことと、就活中の娘・愛美のこと。

ある日の休日、一馬にいつまでアルバイトを続けるのかと問う聡に、将来バーテンダーになりたいと本気で一馬が伝える。「俺、いい会社に入って、いい給料をもらっても、幸せだって思えなかった。そういう人間もいるんだよ。」聡は、その言葉を聞いて会社の元部下・蓮田麻衣子が発した言葉を思い出した。先日、彼女から自身が性同一性障がいであると相談されていた。「どうしても、この身体や性別に馴染めない。そういう人間もいるんです。」しかし、性同一性障がいについて知識もない聡は、適切なアドバイスを麻衣子にすることができなかった。

ストーリーの後半は聡が「大切なことは他人がどう見るかではなく、自分がどう生きるか」と認識し、また「いろんな人がいた方がカラフルでいいじゃない」と導かれていく。

『シェアしてみたらわかったこと』

東京のどこかにあるシェアハウス。そこには、外国人、トランスジェンダー、発達障がいの特性のある人など、さまざまな立場の人が暮らしています。同居する人たちのエピソードの他、家族の話や専門家の解説もあり、より理解を深めることができます。

■収録されているテーマと解説者・取材先など

●外国人に関する人権

解説：鈴木江里子さん（国士舘大学教授）

取材：NPO 法人多文化共生センター東京

●性自認や性的指向に関する人権

解説：小川奈津己さん（NPO 法人「ReBit」教育事業部マネージャー）

取材：小林りょう子さん（NPO 法人「手をつなごう学校」副代表理事）

●外から見えにくい障がいのある人の人権

取材：発達障がいの就職支援を行う就労移行支援事業所「ディーキャリア」

●災害時の人権

解説：東俊裕さん（熊本学園大学教授）

■あらすじ

シェアハウスで暮らすことになった主人公・未来が、同居人たちとの交流を通して初めて気づいたことを4つのストーリーにまとめている。

1.未来と和也がリビングで外国人に対する陰口を言っていると、ネパール人のガネスが帰宅し、気まずい雰囲気。見かねた家主の守が、災害時に避難所で出会った外国人家族の心温まるエピソードを話す。

2.未来は和也のアウティングによって、じゅんがトランスジェンダーであることを知る。本来は、当事者のタイミングで自身のことを打ち明けるべきと嘆きながらも、やむなくじゅんは未来に自分の辛かった体験を交えて語り始める。

3.未来が帰宅すると、沙織がリビングで熱心にメモを書いている。話を聞くと、沙織は発達障がいで、生活上のトラブル回避のために、事細かくメモをしていると。気になった未来は、自分でも発達障がいについて調べてみた。

4.突如、地震が発生した。住民がリビングに集まり、守の提案で、消費期限間近の非常食を食べながら、それぞれの災害時の大変だった経験などを語り合う。